

沖縄県内で風しん患者が発生しています!!

風しんとは

風しんは、発熱、発疹、リンパ節の腫れを特徴とする風しんウイルスによる感染性疾患で、飛沫感染によってヒトからヒトに感染します。発疹が出る前後約1週間は人に感染させる可能性があります。一般的に軽症で経過も良好ですが、大人がかかると、発熱や発疹が長く続き、関節炎を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、妊婦が妊娠20週頃までに感染すると、胎児が風疹ウイルスに感染し、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする「先天性風しん症候群（CRS）」の赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊娠中は風しん感染を予防するためのワクチン接種ができません。そのため、妊娠を希望する方や、その周囲のご家族、また職場の方も風しんにかからないための予防が重要です。現在、麻しん風し

ん混合ワクチン（MRワクチン）として、2回（1歳時と小学校就学前）の定期接種が実施されています。成人の方は、MRワクチンの任意接種が実施できます。

2018年の流行について

2018年夏頃からの首都圏での流行を契機に、全国的に流行が拡大傾向にあります。県内でも2018年9月末に2016年以来、2年ぶりに風しん患者が発生しました。以降、感染源や症例間の関連については不明ですが、2019年1月20日時点で、合計15人の風しん患者が報告されています（図1）。また、外国からの輸入例と思われる報告が1例ありました。

2019年1月20日現在 (n=15)

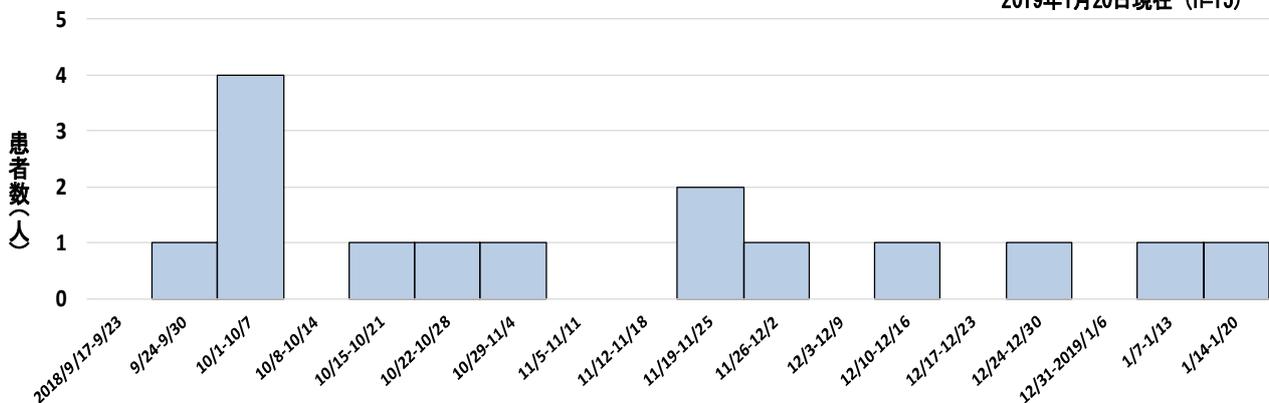
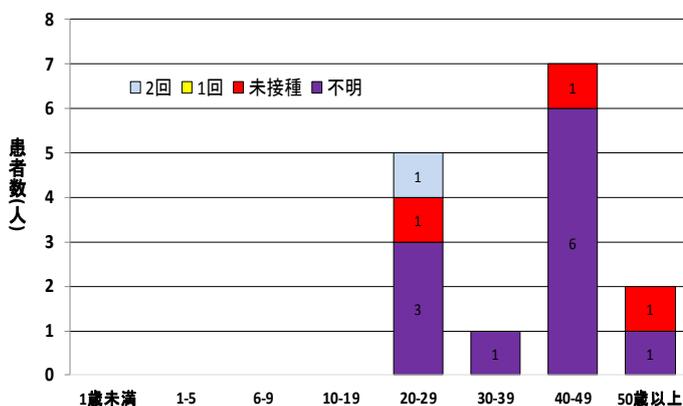


図1. 風しん患者の発生状況(発症日：2018年9月17日～2019年1月20日)

2019年1月20日現在 (n=15)



患者の年齢別では、全て20歳以上の成人に見られました。また、風しんワクチン接種歴については、接種歴が明らかな4人のうち、未接種者が3人を占めました（図2）。

図2. 風しん患者の年齢分布と予防接種歴

風しんへの抵抗力

ワクチン接種をすることで、風しん抗体を獲得することができます。抗体を保有しているということは、風しんに対する抵抗力があるということです。2014年～2017年（2015年を除く）に当所では、赤血球凝集抑制（HI）法を用いて、県内の風しん HI 抗体保有調査を実施しました。その結果、女性は、2016年は0～3歳を除いた各年齢群で高い抗体保有率でしたが、2014年および2017年には20代後半～30代前半において、風しんの免疫があるとされる HI 抗体価（8倍以上）を保有する割合が低いことが分かりました（図3、上）。また、男性では、調査した年によってわずかにばらつきはありますが、3年とも特に30代後半の抗体を保有する割合が低いことが分かりました（図3、下）。

予防と対策

ワクチン接種が最も有効な予防法です。

これまで風しんにかかったことがなく、以下の項目に該当する方は、ワクチン接種の実施についてご検討下さい。ワクチン接種についてご不明な点は医療機関にご相談ください。

1. ワクチン接種歴がない方
2. 妊娠を希望する女性や、抗体を保有していない妊婦の家族
3. ワクチン接種歴が1回（1回の接種では免疫が十分に獲得できていない場合がある）のみで、

- ① 風しんにかかるリスクがある職種（医療従事者など）や、かかることで周囲への影響が大きい職種（教育関係者など）に従事する方
- ② 海外へ渡航予定のある方

各種ワクチン接種を実施している県内医療機関は、沖縄県医師会ホームページに掲載されています。

ワクチン接種実施機関一覧

（県医師会ホームページ）

<http://www.okinawa.med.or.jp/>

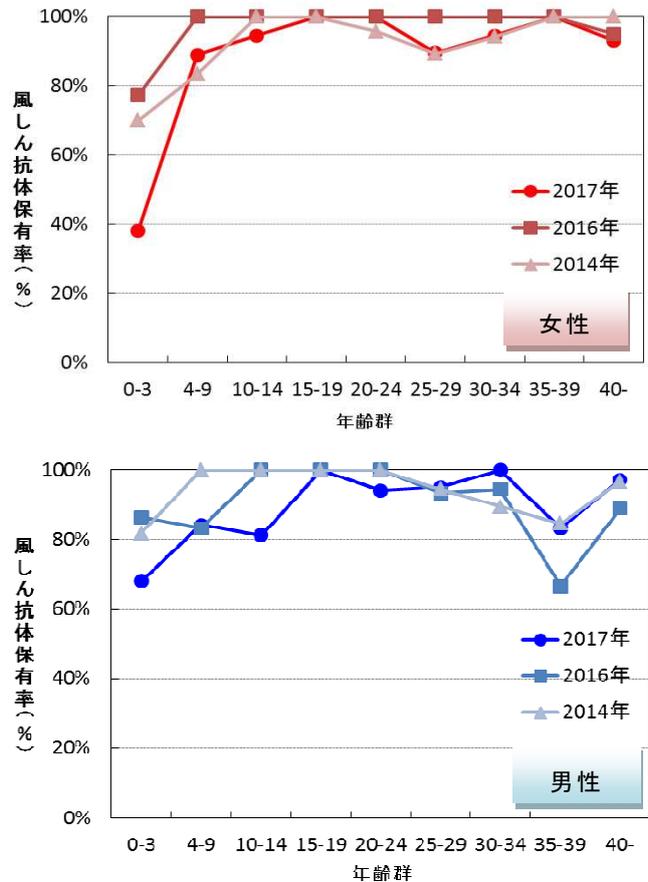


図3. 沖縄県の風しん HI 抗体価 8 倍以上の保有状況（2014～2017年（2015年を除く））
上：女性の風しん抗体保有率
下：男性の風しん抗体保有率

なお、これまで定期接種の機会がなく、感染リスクのある世代とされる1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性を対象に、2019年度から2021年度にかけて、原則無料で抗体検査（風しんに対する免疫の有無を測定する検査）を行い、検査結果が陰性だった者に対して、定期接種が実施される予定です。（詳細は国で検討中。内容が変更する場合があります。）

【企画管理班、衛生生物班】